

ハンガリーのお笑い芸人 ナジ・バンドー・アンドラーシュ 2

～「コツカ通りの雨漏り」～

飯田 緑

傑作「言葉パネル」に続く第二弾は、同じくお役所仕事の遅さと工事屋さんの手抜き工事をやり玉にあげた「コツカ通りの雨漏り」。実はこの「コツカ通り～」はシリーズになっていて、ペシュト側の十区（ケーバーニャ地区）にある団地地帯の生活をとりあげた一連の作品のひとつ。

コツカ通りの雨漏り

始まりは九月八日だった。

家の前の通りで水道管が破裂した。四日間というもの水なしでみじめな生活を送った。要請した給水車ではなく、要請した給水車は到着しない、ということ伝える手紙だけが到着した。

一口のビールのように、水が恋しかった・・・

九月十二日

ついにわれわれの住まいにも水がきた・・・大量の雨が降った！・・・以来止むことがない・・・

女房はコムソール団員のくせに神に嘆き訴えた、以来雷鳴とどろき稲妻まで光る！・・・

九月十三日

しつこく雨が降っている。

第三段階洪水防衛対策の手配する。

バケツ、洗面器、おまる・・・平皿、スープ皿を雨漏り箇所置く。わが家はまるで金物屋の見本展示コーナー・・・大部分を紙ナプキンで拭こうと試みたが、富農のリストにのせられると困るので止めた。

九月十五日

部屋と空中で放送中のペトファイ放送を捕まえた・・・

国立水先案内放送を聞いた「大きな家での水路の渋滞・・・台所の浅瀬状況・・・曳き船は湯ぶねにつけること禁止！」

九月十七日

本日はノロマ亀退治だった！・・・午後水産資源庁から経験不足、不器用なルーキー亀野郎がやって来て、何時間も前からかもめとガンがわれらの頭上をまわっているのを発見したからと、花コーナーを即効有効な自然保護区域に認定したのだ・・・

午後初めての西側からの客人が到着した、隅に二羽のマガモが巣をかけたのである。

九月十九日

近所の生徒たちのためここで生物の授業が行われる・・・どこかの獣野郎がうちのドアに「カルパティア盆地」と書いた。

部屋の中央に一羽のコウノトリが舞い降りた。女房曰く、ねらいをつけさせないで、自分はもう国営銀行も育児手当もうんざりだと。

九月二十日

魚まで現れた！・・・

午後作り付けの戸棚から一尾の川カマスが落ちた、それからイクラを産卵して、泳ぎさった・・・

九月二十二日

すでにどの子も泳げる。そして千フォリントの使用料でヴァシャの水球チームまでここにやって来る・・・

女房は昼食を部屋の中央に並べる、それにあるつくにはひと泳ぎしなくてはならない・・・

夕方息子が顔が痛いと訴える・・・外科に連れて行っただが、あっさり放り出された、彼ら専門家はえらは扱わないと言われた・・・助教授は、間違いなく釣り人らしかったが、なれなれしく私の肩をたたいて言った、ねえ君、水にもどしなさい、まだ充分に大きくないよ！

九月二十四日

本日コムソールの委員会がわれわれのところにやってきて、彼らの援助により食料品室から泥を放出することを引き受けてくれた。

われわれは状況を測定しようと入り込んだが、食料品室は無人ではなかった、一人の褐色の小さな人がそこに立っていて、礼儀正しく挨拶し、それから田植えを続けた・・・

九月二十六日

ようやくわれわれのために何かしてくれることになった、家の周囲に防波堤が立つ・・・

女房と新米堤防労働者との現場を押さえた。

九月二十七日

われわれは狂気の手前にいる・・・ラジオは日夜ヘンデルの「水上の音楽」を流している。

水面はもうこれ以上高くなりようがないと希望をいなく、本日建築資材価格の高さに追いついたので・・・

十月四日

大部屋で寄木細工の床が上に反り返って、新しい島が誕生した。ちょうど姑の誕生日だったので、われわれはそれをマルギット島(ブダペストの中央を流れるドナウ川にある島の名前)と命名し、海賊の慣習に従い骸骨模様のももひきをピンでとめた。

十月五日

急激な怒りの発作にかられ広告をだす「ドウナをのぞむ当家のプールを魚のいないどんな部屋とでも交換したし。水道が引いてなくても何の問題もなし」

十月七日

すでに海水まである、台所で塩入れがひっくりかえった。

トイレ付近で水上にクストー船長が浮上してきて、高度の汚染を指摘し、洗面台（貝）が危険であると言った・・・これ以後これといった目的もなく坐ることは出来ない！・・・

十月十四日

今日最初のサメたちが現れた。

子供たちを安全なところに置き、女房のほうはときどき一人きりにするようにつとめた・・・彼女に言った、「お前、来ても大丈夫とお母さんに手紙を書けよ」訪問は通例どおりになった。

十月二十日

女房のお袋さんがやって来た。昼間の十二時ころ、一束のティサの花を手にして、玄関の部屋の浅瀬に駆けつけきた・・・

彼女が服を脱いでいる間、薬でいっぱいバックが水に落ちた！ぼんざい、薬効温泉水までであるぞ！

十月二十四日

隣人たちが新聞に、私がネッシーをかくまっていると書いた・・・いかなる怪物でもなく、姑がひと泳ぎしたのだ、ということが明らかになった。

十一月九日

寒い天気が早くやって来た、冷蔵庫の上がひどく凍っている・・・夕方十六時動物園のペンギンがわが家に政治的亡命を求めた。

十二月十日

われわれは完全に凍って神経科に入院している。

われわれが解凍しないうちは、開放しないと言われた・・・ああ、監視だけはかんべんしてほしい！

十二月十七日

いかれた医者が一週間というもの冷水湿布をあてがったにもかかわらず、われわれは十分に全快した。

十二月十八日

今日はいささかぶり返した。われわれのところに集金人がやってきて、未払いの水道料金を払えと言った・・・ぬれた千フォリント札を渡した

ら、やつは偽札だ、水模様（ハンガリー語ですかし模様のこと）がないとぬかした。

十二月二十四日

今朝主治医が、われわれは常態に復したので、イヴには帰宅して良いと言った。

救急車を呼ぶかどうかきかれた。

私はかわした・・「せつかくですが先生、必要ありません、水上バス（ドナウ河の連絡船）で行きますから」・・・

十二月二十五日

祭日は素晴らしく心安らかだった、ついに雨漏りがやんだのだ！雪が降っている！